

豊作の予感のなか、今年は米価をどこまで下げるのかという農政への心配は、総選挙のなかで語られていません。いっぽう茨城県では、2大政党と言いながら、自民も民主も一緒になってムダづかい県政を推進しようというわかりやすい図式で知事選がたたかわれています。そんな中で、知り合いが興味深い資料を見つけられました。当人のコメントを転載しちやいます。(http://blog.fight-web.jp/から)



遊びまくった夏休み、最後の最後に宿題に追われ、仕事を仕上げる姿は、40年前の自分そのものだなあ…

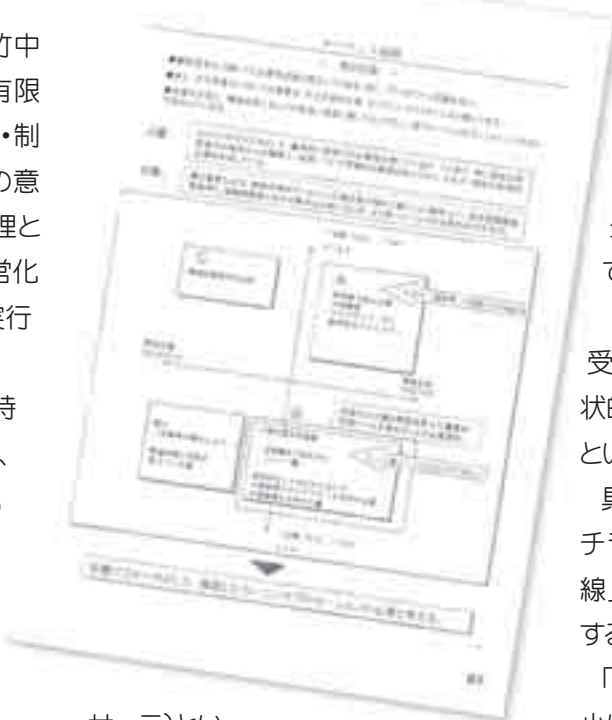
相手は知能指数が低いおばさん 証拠文書にみる自民党のホンネ

昨年12月内閣府政府広報室は、竹中大臣の政務秘書官の知人である「有限会社スリード」に、政府広報の企画・制作・印刷・折込を丸投げ、与党内での意見集約はできないときに、小泉総理と竹中大臣とのほぼ独断で「郵政民営化の政府広報の新聞折込」の企画は実行された。

通常行うべき競争入札をせず、当時開設したばかりの社員2名の会社に、随意契約によって発注したという先の国会での郵政疑惑については、まだ記憶が新しいだろう。

予算総額1億5千万円。これによって有限会社スリードは、2000万円の粗利を得たと報じられている。

その時というか、国会の郵政民営化特別委員会の理事会の資料として提出された、「郵政民営化・合意形成コミュニケーション戦略(案)」(2004年12月15日 有限会社スリード・株式会社オフィスサン



サーラ)とい

うのを改めて読み直してみた。

この文書には、構造改革への賛成・反対、IQの高い・低いで、ターゲットが4つのクラスターに分けられている。

このうち小泉内閣支持基盤は、構造改

革に賛成だが、IQの低い「B層」とされており、主婦・子供・シルバー層などを中心とした、『具体的なことはわからないが、小泉総理のキャラクターを支持する層』であると定義されている。

この『B層に徹底フォーカス、彼らが受容しやすい媒体に徹底フォーカス、波状的かつ累積的にラーニングを行なう』という戦略が提案されている。

具体的には、ラジオや雑誌、折り込みチラシで、「心配する必要ありません路線」「便利になります路線」でアプローチすることと書かれている。

「IQの低いおばさん達」に層を分け、小ばかにされているのに、それでも小泉がくればキャーキャー騒ぐおばさん達が、かわいそうだ。

振り返れば小泉自民党のメディア戦略はこれが原点かも知れぬと思えてくる。

選挙権をもった女性の戦争責任

「年老いて恥ずかしいから、もう選挙には行かないつもりだ」と話していた北茨城市のKさんに、鈴木やす子さんが永六輔さんの受け売りでこんな話をしたとか。「かつて女性には選挙権がなかったという意味で、前の戦争を起こしたのは男の責任だ。でも、いまは

女性にも選挙権がある。再び日本が戦争をする国になるとすれば今度は女性にも責任はある」

深く納得してくれたKさんのような理性をあげることで、国民をなめきった小泉自民党への反論だよな。

憲法フォークジャンボリーに飛入り登場の永六輔さん

